

発掘現場から⑬

門前上屋敷遺跡で

みつかった中世のお墓



門前上屋敷遺跡で見つかったお墓

4月から行ってきた発掘調査の結果を報告書としてまとめていく作業を行っています。この作業は、遺跡のもつ意義や情報を正しく記録し、伝えるため、そして文化財をとおして鳥取県を県外にアピールする材料とするために丁寧に行っています。

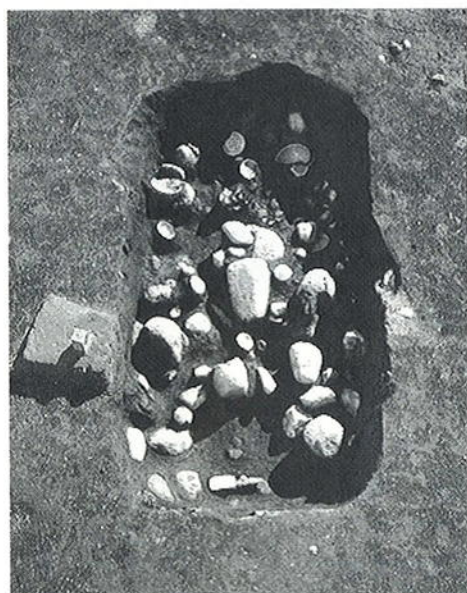
楕円形のお墓

今回は門前上屋敷遺跡で見つかった中世のお墓について紹介します。今回の調査で見つかったお墓は1基だけ。このお墓は平安時代末〜鎌倉時代（12世紀後半〜13世紀）ごろのもので、長さ1.3m、幅0.7mほどの楕円形

をした素掘りの穴でした。

お墓の中には骨などは残っていませんでしたが、短刀や刀子などが埋葬されていました。この短刀や刀子は墓穴の真ん中で見つかったので、遺体の胸の辺りに供えられていたと思われます。

このお墓は、近くに建物の跡が見つかったことから「屋



押平弘法堂で見つかったお墓

敷墓」の可能性が考えられます。

屋敷墓という聞きなれない言葉がでてきましたが、いったいどのようなものだと思いますか？

屋敷墓とは文字通り屋敷地内にあるお墓のことです。屋敷をつくった人を祀ったもので、屋敷や開墾した畑などの安堵を願って造られたものと思われま

す。こうした古い時代の屋敷墓は、近くでは押平弘法堂遺跡（大山町）・南原千軒遺跡（琴浦町）などでも見つかっています。

また当時では相当高価であったはずの中国製の陶磁器や瀬戸地方・美濃地方などの遠くから運ばれた焼ものなどが見つかったので、屋敷の所有者はかなりの財力を持つようになったと考えられます。しかしながらお墓がつくられて百数十年後には屋敷が無くなってしまい、田んぼや畑と変化してしまっています。何か世の無常を感じますね。

屋敷墓と屋敷のその後

この門前上屋敷遺跡の屋敷墓と屋敷はその後、いったいどうなっていたのでしょうか？お墓の近くにある建物跡は幾度か

鳥取県埋蔵文化財センター
調査第二係（名和調査事務所）
〒689-3205
西伯郡大山町西坪字中松堀 179-5
電話 0859-54-2671